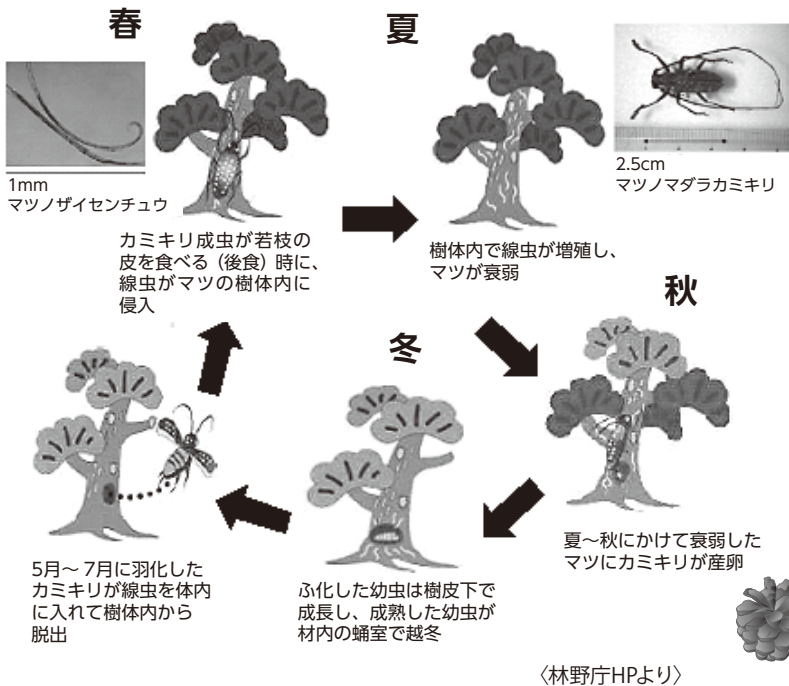


松くい虫被害のメカニズム



松くい虫(マツ材線虫病)

「松くい虫(マツ材線虫病)とは」
マツの樹体に「マツノザイセンチュウ(病原体)」が増殖することで発病し、マツが急速にしおれて枯れる外来伝染病。「マツノマダラカミキリ(媒介者)」によって媒介される。

館報
いりやま

平成30年3月1日現在

世帯数	864戸
男	965人
女	1,030人
総人口	1,995人

【防除方法としては】

一、伐倒駆除
山林内の被害木を伐倒、玉切り、集積して、くん蒸処理(薬剤処理してシートで覆う)を実施する。

二、予防薬剤散布
特別防除(有人ヘリ薬剤散布)又は地上散布(動力噴霧機、無人ヘリによる薬剤散布)を実施する。

三、更新伐(樹種転換)
被害木を含めたアカマツを、一部の健全な木を残しながら他の樹種に天然更新させる。健全木は搬出し、被害木はチップ処理を行う。

四、樹幹注入(補助金)
健全な松の樹幹に直接薬剤を注入し、マツノザイセンチュウの侵入を防止する。

【なぜ、被害は広がるのか】

一、マツノマダラカミキリの飛来(自然伝播)
感染源がある限り、完全防除は困難

二、カミキリ入り被害材の「移動」(人為による拡大)
アカマツを薪にする場合も「要注意!」

三、限界のある「伐倒駆除」(人対虫の戦い・・・)
林業労働力、予算、枯れの見落とし、枝残し・・・

【対策は戦術から戦略へ】

守るべき松林と周辺松林のそれぞれで、適切な対策を実施することで松林を守って行く。

一、守るべき松林
伐倒駆除、予防薬剤散布

二、周辺松林
伐倒駆除、更新伐

三、その他の松(補助あり)
伐倒駆除、樹幹注入

★補助制度の詳細は耕地林務課まで☎(34) 32224

最後の三九郎

子供の頃の三九郎を今一度造りたい。そんな思いから十数人で始めた「二十日会三九郎」。徳運寺の厄除け火まつりとして23年間、毎年秋から準備に入り、約13メートルの高さの物を3基つくり、ライトアップをして幻想的な雰囲気醸し出してました。

やがて会員の加齢と共に2基となり、1基となりりましたが、男の心意気で続けて来ましたが、しかし

昨今、気持ちと思いが噛み合わなくなり、この辺が退け時かという事で、未練は残るが、惜しまれつつ引くのも男の口マンかな・・・と。仲間と共に23年間の想いと、最後の雄姿をしっかりとこの目に焼き付けて・・・お疲れさま。

(原山 保)



松くい虫対策協議会設立

2月8日、入山辺地区松くい虫対策協議会が設立されました。松くい虫による松林及び林産物への被害を調査し、被害拡大を防ぐための方策を検討するとともに被害防止事業を推進し、地域の振興を図ることを目的としています。今後学習会などを計画し、入山辺に適した対策を考えていくことにしています。

人権講座開催

入山辺地区人権啓発推進協議会、入山辺老政会主催、入山辺公民館共催による人権講座が2月24日に開催され、約90名の方々に参加をいただきました。

毎年2月に様々な演題で開催をしていますが、今年度は落語家の和泉家志ん治さんをお招きし、落語を通して人権について講演をしていただきました。

講演の前座として和泉家志ん治さんのもとで修業をしている入山辺中学校ドリム大学落語学科の桑島直寛くん(原・厩所町会)が発表をしてくださいました。多くの参加者を前に堂々とした話しぶりで修業の成果を存分に発揮し、会場中が笑いに包まれ、大いに盛り上がりました。



会場を盛り上げる四六家直太郎くん



人情話をする和泉家志ん治さん

和泉家志ん治さんの人情話の落語では参加者が話しに引き込まれ、楽しみ、笑いながら話を聞いていました。また、笑うことが生きていく中でいかに大切なのかをお話しいただき、参加者は皆、真剣に耳を傾けている様子でした。

差別やいじめ等の人権問題は日頃の生活の中で考える機会があまりなく、難しいものと考えてしまいます。しかしながら、今回の和泉家志ん治さんの人情話や笑うことの大切さを講演会で聞き、まずは笑顔で日々の生活を過ごしていくことが差別やいじめ等がなくしていくことの第一歩になるのではないのでしょうか。差別やいじめ等がなく、みんなが笑顔で過ごせる入山辺を皆さんで作っていきましょ

人権視察研修

入山辺地区人権啓発推進協議会主催、入山辺公民館共催で人権視察研修が行われ、今年度は「ひとミュージアム上野誠版画館」と「長野県立歴史館」を見学しました。

「ひとミュージアム上野誠版画館」では館長である田島館長に上野誠や、その作品についての解説をしていただきました。上野誠は平和を願い広島・長崎の原爆被害を題材に制作に取り組んだ版画家であり、参加者は興味深そうに版画を見ていました。



また、「長野県立歴史館」では冬季展として「田中芳男虫取御用の明治維新」が開催されていました。田中芳男はパリ万国博覧会に出品する日本初の昆虫標本作りに挑んだ人物であり、「武」ではなく「知」によってよりよい社会を作ろうとしました。企画展の他に常設展や普段見ることができないバックヤードも見学させていただきました。貴重な体験となりました。平和や戦争について改めて考える視察研修となりました。

活動を広げるじゃんか活動紹介

「住んでみたい・訪れてみたい入山辺」を目指し、地域の魅力を地区内外に発信している入山辺地区の将来ビジョンを考える会(愛称 こんな山辺)の今年度の活動を一部紹介します。

① サロン赤ちようちん

今年度JA松本ハイランド入山辺支所が統合され、その跡地がJA入山辺地域交流センターとなりました。そのJA入山辺地域交流センターを有効に活用し、地域の交流の場に行かないかということから「サロン赤ちようちん」が始まりました。10月に第1回目の「サロン赤ちようちん」が開催され、2月に第2回目が開催されました。今後も定期的に開催していく予定なのでぜひ皆様ご参加ください!



② 移動組み立て式ビザ窯「じゃんドラ君」の制作

「じゃんドラ君」は地域の交流ができる備品を目的に制作が始められました。設計から制作までを全て自分たちで行い10月末に完成となりました。設営、撤収も簡単に軽トラックで運ぶことのできるものとなっています。



地区内の団体に向けて無料貸し出しを行っていただきますので使用したい方は入山辺地区地域づくりセンターまでご連絡ください!

③ ガイドマップの改訂

平成26年に作成された入山辺のガイドマップ「入山辺のさんぽ」を今年度改訂することになりました。ガイドマップは入山辺の行事や見どころが分かりやすくまとめであり、入山辺の魅力が伝わるガイドマップとなっています。皆様もぜひ改訂されたガイドマップをご覧いただき、入山辺の魅力を再発見してください!

